

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第5回和泉市総合教育会議
開催日時	令和8年3月26日(木)午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、西家教育委員、小谷教育委員、木村教育委員、網代教育委員</p> <p>[事務局](教育委員会)          辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、仲谷児童生徒支援担当課長、辻川児童生徒支援担当主幹、岩井教職員担当課長、鍛冶教育・こども部次長兼学校園管理室長、奥教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、吉田教育総務課企画係長、西川教育総務課主事</p> <p>(市長部局)          前田市長公室長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査</p>
会議の議題	<p>(1)コミュニティ・スクールについて</p> <p>(2)和泉市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について</p> <p>(3)本市における生徒指導上の課題の対応について(非公開)</p>
会議の要旨	和泉市学校運営協議会(コミュニティ・スクール)連絡協議会の報告、和泉市版コミュニティ・スクールガイド、「いずみ未来サポーターズ」ブック、和泉市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定、本市における生徒指導上の課題の対応について説明し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
その他の必要事項	会議公開・傍聴者2名

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 辻市長から、開会の挨拶
2. 事務局(市長部局)から「第4回総合教育会議の振り返り」について説明
3. 事務局(教育委員会)から「和泉市学校運営協議会(コミュニティ・スクール)連絡協議会の報告」「和泉市版コミュニティ・スクールガイド」について説明

4. 意見交換

【大槻教育長】

- ・委員向けのガイドに、事例を掲載することで分かりやすくなった。
- ・教職員は教職員向けガイドを使い、学校で何ができるか議論するための材料にしてほしい。
- ・和泉市学校運営協議会連絡協議会では、全く異なる事例を聞くことができ、イメージしやすくなった。
- ・事例にとらわれないよう気をつけながら、各学校のコミスクガイドを作してほしい。

【深堀職務代理者】

- ・委員向けガイドは、制度趣旨から説明が始まり、実際の事例が盛り込まれたことで理解しやすくなった。
- ・「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」の理念と、コミュニティ・スクールの取組みは親和性が高いので、ガイドで条例についてふれてもいいのではないかと。
- ・教職員向けにのみに書かれているロードマップを、委員向けにも追加し、一体感をもって取り組めるようにしてはどうか。

【事務局(教育委員会)】

- ・検討し、より良いものにしていきたい。

【西家委員】

- ・コミュニティ・スクールには、地域が関わることによる社会性を育む場としての機能を期待している。
- ・現状のガイドでは学校側の視点に偏っている印象を受けるため、社会学的な内容を強めることで、より地域住民の納得感が増し、長く続けていくことができるのではないかと。
- ・地域や子ども、保護者の意見をもう少し反映できる構成にしてはどうか。

【事務局(教育委員会)】

- ・本市のコミュニティ・スクールは、学校をより良くするために協議する場と定義しており、その取り組みの中で、地域の活性化やコミュニティ形成にもつながっていくものと考えている。
- ・指摘いただいた視点については、今後の検討課題としたい。

【小谷委員】

- ・ファシリテーターは特定の一人に固定せず、参加者全員が交代で務められるようになるのが理想であり、最終的には自走できるよう、ガイドにノウハウやスキルを明記し、誰でも取り組めるようにしてはどうか。また、特殊な技能として格上げしすぎるのではなく、本を読めば分かる程度の技術として周知し、一方で、しっかりした勉強会を設けるなどの工夫が必要。
- ・機密事項の取り扱いについて明記すべき。

- ・機能的な運営ができるよう、Excel 等を使って進捗を可視化したり、議事録作成の AI 活用、資料のデータ保存先の確保、委員同士の連絡方法を定めるなどしてはどうか。
- ・トラブル防止のため、事前に決めておくべきことは、ガイドへ記載すべき。
- ・継続的な取り組みになるよう、ロードマップは単年度ではなく、3年程度の長期的なものにしてはどうか。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・将来的には、誰もがファシリテーターを務められるよう、ノウハウをマニュアル化して提示していくとともに、役割を担う人向けに、勉強会の実施を検討する。
- ・事務局の負担増につながらないよう、AI ツールの活用など、効率的な運用を検討する。
- ・運用上の基本ルールは現場任せにせず、共通の指針として最低限のルールを定めたい。
- ・長期的なスパンで考えることは必要な視点であり、検討したい。

#### 【網代委員】

- ・委員への就任を検討している方のハードルを下げ、誰でも学校の支援ができることが示されたものになっている。
- ・現場の教員の中には、これまで地域全体で子どもを育ててきたという長い歴史と自負があり、丁寧なガイドを示すことに対して、マイナスのイメージを持つ方もいるのではないかと。ここまで丁寧なガイドを作成する意図や意味はあるのか。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・教職員をはじめ、参加いただいている保護者や地域団体の方々の間でも学校運営協議会や学校協議会制度、地域教育協議会の違いが十分に周知できていない状況であり、取り組みを進める中で、改めて制度への理解を深める必要性を感じている。
- ・関係者全員が共有の認識を持ち、スムーズな活動を推進できるようにするため、このようなガイドを作成することになった。

#### 【網代委員】

- ・地域や保護者の方々には、学校にとって大きな支えであり、学校を含め、それぞれが三位一体となって、子どものために活動することが望ましい。
- ・各組織がうまく連携し、円滑に運営されることを期待している。

#### 【木村委員】

- ・具体的な事例により地域教育協議会とコミュニティ・スクールとの違いがイメージしやすくなった。
- ・地域や保護者にとって新たな組織が増えたことにより、負担感が増す可能性がある。
- ・学校をよくするための議論には、大人だけでなく、子どもの視点を入れることが望ましい。
- ・子どもの思いを汲み上げることで、地域や保護者もより協力しやすくなる。
- ・周囲の大人たちが自分たちのことを考えてくれていることを知ることは、子どもたちが主体的に地域づくりに参画する姿勢を育むことにもなる。
- ・先進的な事例を刺激として、和泉市独自の魅力ある取り組みが各校へ広がっていくことを期待する。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・コミュニティ・スクールが大人同士の形式的な会議にならないよう、常に意識し、子どもたちのためになる運営を目指したい。
- ・実際に子どもたちが参加し、委員へ直接意見を伝えることで、委員側も自分たちができていることが見えやすくなるという良い循環が生まれた事例もある。

・連絡協議会でも報告いただき、教職員や委員からは是非取り入れたいという前向きな意見もあった。

#### 【辻市長】

・前回の意見を反映して、市民向けを委員向けに変更した経緯と、市民向けの情報発信についての考えを教えてください。

・教職員ガイドについて管理職と教職員で視点が異なるはずだが、それぞれの立場においてどのように活用していく想定か、運用のイメージを教えてください。

#### 【事務局(教育委員会)】

・各コミュニティ・スクールで実施事例を蓄積することを優先し、その上で広報いずみ等を通じて市民に広く発信していきたいと考えたことから、まずは委員向けを作成した。

・管理職は、学校運営を組織的に推進するための実務的な指針として、教職員は、社会に開かれた教育課程の実現に向けた取組みを推進するためのツールとして、積極的に活用してほしい。

#### 5. 事務局(教育委員会)から『いずみ未来サポーターズ』ブックについて説明

#### 6. 意見交換

#### 【大槻教育長】

・登録企業間で依頼に偏りが出ないように配慮しつつ、企業の現状を把握するための定期的な追跡調査やデータ更新する仕組みを検討すべき。

・探究は単なる調べ学習や職業体験とは異なるため、学校と企業、事務局の3者がその趣旨を正しく把握し、共通認識を持つことが不可欠。

・冊子を作って終わりにするのではなく、実際に活用した学校からのフィードバックを受け、事例を共有しながらブラッシュアップしていく継続的な研究姿勢が重要。

#### 【深堀職務代理者】

・従来の職場体験や社会見学はイメージしやすいが、探究学習への協力は企業にとって難易度が高い要求として受け取られる可能性がある。

・探究学習の目的を明確にし、理念を正しく企業に伝えるため、依頼文を送るだけでなく、直接対話するなど、繰り返し丁寧に伝えていくことが大切。

#### 【事務局(教育委員会)】

・探究という言葉の定義やイメージについて、関係者間で丁寧なすりあわせが必要であることは認識している。

・企業へアプローチする委託事業者に対しても、理念や達成目標を正確に共有し、緊密な打ち合わせを重ね、齟齬のない体制を構築していく。

・「いずみ未来サポーターズ」ブック(以下、「サポーターズ・ブック」という。)が完成した際には、学校現場において円滑に活用されるよう、教職員に対する周知や活用方法の説明を丁寧に行っていく。

#### 【西家委員】

・サポーターズ・ブックはコミュニティ・スクールとの親和性が非常に高いものだと感じる。

・実際に働いている方々の生の声を聴くことは、社会学的な観点からも子どもたちにとって重要。

・単なる体験で終わらせず、そこから探究や学問として身につけていくプロセスが肝心。

・現状の案は、やや行政目線に偏っている印象があるため、家庭やこどもの目線を意識した表現に整える必要があ

る。

- ・学校が働きかけるのはもちろんだが、行政の役割として、企業が意欲を持って参画し、理解を深められるようなサポーターズ・ブックにするべき。
- ・理念や普遍的な考えはデジタル機器に不慣れな世代にも広く浸透させるため、紙で残すべきではないか。
- ・毎年の事例や直面した課題など、常にアップデートが必要な情報は、スピード感のある電子媒体で広げていくのがいいのではないか。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・情報を得て終わりにするのではなく、得た情報をもとに学びを広げていく必要がある。
- ・探究学習には正解がないので、特定の型にはめ込んでしまうことのないよう、柔軟な進め方を意識している。
- ・学校現場にこの取組みをどのように浸透させ、定着させていくかを検討していく。
- ・企業が意欲を持って参画できるよう、市長部局とも連携を図りながら進めていく。・広報媒体の選定については、時期を逃して効果が薄れないよう、適切なタイミングを見極めながら運用を考えたい。

#### 【小谷委員】

- ・地域とつながり、地域の産業に触れることは、将来、地域を盛り上げてくれる人材の育成に直結するものであり、地域の人口減少を食い止めることにもなる。
- ・従来のドリル学習だけではなく、自ら問い、考える力を伸ばすことで、学力の向上にもつながるはず。
- ・企業の選定に子どもが関わるプロセスを設けてみてはどうか。
- ・探究学習は高学年が中心になると思われるが、具体的にどの学年のどのカリキュラムに組み込むか決まっているか。
- ・コミュニティ・スクールを選定プロセスに巻き込むことで、地域ぐるみの面白い取組みになるのではないか。
- ・課題設定、解決、プレゼンなど、一連のプロセスを一環してサポートできる熱意のある企業を選定し、探究学習としての連続性を持たせるべき。
- ・探究学習のノウハウをまとめたガイドブックを作成し、教員や企業で共有すべき。
- ・子どもへの適切な問いかけができるファシリテーターの存在は重要で、教員がその役割をしっかりと担えるよう手順を整備することで、どの学校・企業でも質の高い教育効果が期待できるのではないか。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・教科の知識や学習意欲を活用して深めていくという性質上、小学校中学年から高学年での実施が現実的であり、複数の教科をまたぐ横断的な学びとしての性質もある。

#### 【網代委員】

- ・小学校では総合的な学習の時間を使って、教科横断的な内容を取り扱うことが多いと思うが、各教科の中でも探究的な学びは可能であり、教員は日々さまざまな工夫をしていると推察する。
- ・単なる体験で終わらせることがないよう、最終ページに記載の活用イメージを意識すべき。
- ・子どもの力を伸ばすために、企業からどのような経験をさせてもらい、子どもたちがどう変容するか見通す力が教員にも必要になるのではないか。
- ・探究学習は、教科書の内容を教えることとは異なり正解がないため、非常に難しいもの。
- ・探究力とは具体的にどのような能力だと考えているか。

#### 【事務局(教育委員会)】

- ・自ら問を生み出して整理し、分析して答えを出す力が探究力であると考えている。

#### 【網代委員】

・子ども達が疑問をいただくきっかけを作れる教員の存在は重要で、単に正解を教えるのではなく、自ら解決に至るまでの道筋をサポートする力が求められるが、それらの指導力を身につけるために取り組んでいることがあれば教えてほしい。

#### 【事務局(教育委員会)】

・探究活動を実効性のあるものにするため、指導者の育成は極めて重要だと認識し、取り組みを進めている。  
・サポーターズ・ブックを配付して現場任せにするのではなく、各学校と深く関わり、現場と教材をつなぐための伴走型の支援体制が必要。

#### 【網代委員】

・先生の思いが子どもたちに届いたとき、子ども達が深く興味を持ち、成長する姿が見られるのではないか。  
・コミュニティ・スクールと切り離して考えるのではなく、探究的な学習をキーワードに、十分に活用するのがよい。  
・サポーターズ・ブックは教員の力になる取り組みであり、進めていってほしい。

#### 【木村委員】

・社会経験を通じて将来のヒントが得られる取り組みはワクワクするが、実際に進めるとなると、難しさもある。  
・活動が発展した際、授業内だけでは解決できないことも出てくると思われるが、実際のカリキュラムでどれほどのコマ数を使うのか。  
・企業とのつながりをどう持続させていくかも重要。  
・サポーターズ・ブックを作って終わりにするのではなく、取り組みが発展的に進み、進化していくような体制作りも合わせて検討してほしい。

#### 【事務局(教育委員会)】

・基本的には年間 70 時間ある総合的な学習の時間の枠内で進めるものだが、その時間内に収まりきらないのが現実。  
・各教科の授業コマ数も活用しながら進めることで、学習のボリュームを確保できると考える。  
・企業や地域の方に対し、学びに行かせてもらうだけで終わるのではなく、しっかりお礼を伝え、成果をまとめるなど、お互いにとって良い形で年度を締めくくり、次年度につなげられるようにしたい。

#### 【辻市長】

・質の高いサポーターズ・ブックを作るためにはアプローチの仕方が重要だと思うが、具体的にどのような形で進め、企業側にメリットを感じてもらえるのか、その手法を教えてほしい。  
・繋がった企業との関係を途絶えさせないためのアフターケアについて考える必要がある。また、時代は常に変化しており、情報の更新は重要だと考えているが、内容の見直しや更新をどのように進めていくか教えてほしい。

#### 【事務局(教育委員会)】

・サポーターズ・ブックに掲載されることが、企業にとって広報や信頼性の向上といったメリットになるよう、構成を工夫したい。  
・5年程度を目安に更新し、協力企業から取り組んだ感触や難しさを伺うとともに、学校現場からも追加してほしい情報や不要な項目などの要望を吸い上げ、精査していきたい。  
・企業には、協力の可否を問うだけでなく、これまでの縁や繋がりを大切に、熱意が伝わるサポーターズ・ブックを作り上げていきたい。

【小谷委員】

- ・探究学習において、ICT 機器をどれだけ使いこなすかによって、成果に大きな差が生まれる。
- ・AI を活用すれば、情報の調査や内容の要約が容易にできるので、制限するのではなく、活用を認める方向にシフトしてはどうか。
- ・モバイル端末をフル活用し、自ら調べていく学習スタイルを推進すべきではないか。

【事務局(教育委員会)】

- ・AI の活用については、教員のワーキンググループの中で検討している。

7. 事務局(教育委員会)から「和泉市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について説明

8. 意見交換

【小谷委員】

- ・教員の業務実態を適正に把握し、改善するためにも、家庭の協力について明記したほうがいいのではないか。

【事務局(教育委員会)】

- ・家庭への協力については、チラシを配布し、各家庭へ直接呼びかけを行う予定。
- ・各学校現場からも家庭に対して協力を働きかけていくようにしたい。

【西家委員】

- ・時代の変化に伴い、現在は不要となっている仕事が増えている可能性もあり、そういった視点での精査も検討していくべきではないか。

【事務局(教育委員会)】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、各学校での業務を精査し、以前と比較して業務時間は減少傾向になっている。
- ・今後も各学校長と協議・連携しながら、スクラップの観点について、継続して検討していきたい。

【辻市長】

- ・社会情勢や学校の現状に合わせて随時要因分析を行い、その都度最適な対策を講じていくということか。

【事務局(教育委員会)】

- ・各学校で主体的に目標設定をし、PDCA サイクルを回していくようにする。

9. 「本市における生徒指導上の課題の対応について」の意見交換

(非公開)

【事務局(市長部局)】

- ・以上をもって、令和7年度第5回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >